

fff サンフレンズだより

理事長 大友信勝より新春のごあいさつ

「サンフレンズの決意」

No. 47 2009. 1. 21
発行：社会福祉法人 サンフレンズ
編集：法人本部 事務局
〒167-0023
杉並区上井草3-33-10
03-3394-9833



サンフレンズをいつもご理解いただき、支えていただいておりますことを感謝申し上げます。

これからの首都圏は高齢化が急速に進み、安心して暮らせる老後を創るために良質の事業体を維持・発展させていくことが重要な課題になっています。営利目的の事業体が大きな問題を持っていることはコムスン問題が象徴しており、非営利団体が社会的使命を明確にして利用者、市民の視点からサービスの質を向上させていくことが求められていると当法人は認識しています。

恒例の社会保障予算削減 2,200 億円が、国民の声に押されてようやく緩みを見せようとしています。介護保険は 2005 年度改正を契機に介護報酬を切り下げ、利用者の負担増を求め、介護事業を危機的状況に追い込んできました。

当法人はこの間、サービスの質を改善しながら、自己努力の限りを尽くして事業計画に取り組み、地域に必要とされる施設づくりを追求してきました。たとえば、サンフレンズ善福寺は「全室個室のユニットスタイル」の特別養護老人ホームです。職員配置基準は、入居者 3 人に対し職員 1 人 (3 対 1) となっています。しかしそれでは、利用者サー

ビスの水準が維持できません。当施設では、2 対 1 を切る職員配置で、基準の 2 倍近い介護体制にしています。それでも良いサービスの提供は難しく、かつ経営も法人の「持ち出し」でぎりぎりの努力をしています。

現場の職員が、ストレスや病気で追い込まれながら努力をしていることに、介護政策は応えてきませんでした。財政抑制のために、市民にとって切実な介護にこれだけの痛みを押し付けていいわけがありません。

サンフレンズは、「杉並・老後を良くする会」から始まる市民の運動と願いから創設された歴史と歩みを持っています。杉並の地で、これからが大都市の高齢化のピークを迎える時期に、良質の非営利団体として利用者の期待と願いに応えられる、ここで安心して高齢期を過ごせる施設づくりを皆様とともに創りあげていきます。

本年も宜しく願い申し上げます。



感謝の気持ちを込めて

当法人の運営にお力添えいただいた古畑徳實相談役(1994 年 4 月 2 日から 2008 年 4 月 1 日まで就任)がご逝去されました。

ここに生前のご指導・ご支援に感謝申し上げ、山崎和一監事からの追悼文を掲載いたします。

古畑徳實相談役が、去る 11 月お亡くなりになりました。89 歳でした。脳梗塞で緊急入院され、2 年に及ぶご家族の手厚いご介護のもと、静かに旅立たれました。

古畑さんは、この法人設立当初から監事、後に相談役に選任され、主に業務管理と会計面から事業発展に貢献されました。公認会計士としてご多忙にもかかわらず、他の友好 3 団体の監事としても、経営管理の基礎づくりに献身され、以来今日まで 4 団体の哀歓の歴史とともに歩まれた方でした。

ご指導の基本は「身の丈にあった事務」でした。形式的ではなく、各団体の能力に相応しい、分かりやすい資料を求められていました。心からご冥福をお祈りいたします。

2009年 モウーしぶんのない年になりますように！

今年は“丑年”。サンフレンズのサービスをご利用いただいている
“年男”“年女”のご利用者をご紹介します。

<松本 よし様 和田ふれあいの家>



いつも笑顔の松本さんです。
長寿の秘訣は、「皆さんと楽しく話したり、笑ったりすることです。」とのこと
です。

<染谷 テフ様 和泉ふれあいの家>



忘年会でピンキーとキラーズの“恋の季節”を歌いました。
手作りシルクハットをかぶってポーズ！
元気の秘訣は、日課の犬の散歩だそうです。

<間世田 美代様 上井草園 >



間世田さんは、とても穏やかで、笑顔
が素敵な方です。
この笑顔に他のご利用者、職員ともに
癒されています。

<平方 多喜子様 永福ふれあいの家>



挨拶は、いつも笑顔でハイタッチ！
「頑張りましょうね」と積極的に声をかけ、
周りを和やかにしていただきます。

いつまでもお元気でお過ごしください



<山田 ヤへ様 松ノ木ふれあいの家>



松ノ木一の微笑みの持ち主、山田ヤへさんです。
今年の干支の牛を持ってにっこり。

<馬場 陽子様 上井草ふれあいの家>



詩吟、俳句、書道と何ごとにも積極的にプラス思考の馬場陽子さんです。
元旦の朝、太陽が昇る頃お生まれになりました。

<田中 秀代様 サンフレンズ善福寺>



江戸の「粹」の世界を、創作人形に表現し続けてきた方です。私たち職員は人形を見てため息をつき、またその小さな手をしみじみと見つめ、ただ尊敬するばかりです。

<黒澤 宣雄様 サンフレンズ友愛介護センター>



週 2 回、ヘルパーと馬橋公園に行き、元気よく遊ぶ子供たちの姿をみることを楽しみにされています。

地域活動の紹介 第2回

第2回目の「地域活動の紹介」は、和泉ふれあい
の家です。

和泉ふれあいの家では、「脱施設」を目標に地域
に開かれた「広場」としてのふれあいの家を目指
しています。

そのために、町会・老人会・学校等の地域団体
と良い関係をつくり、家族介護教室や公開プログ
ラムを実施するなど、地域とのふれあいの場を大
切にしています。

また、前年度に立ち上げを援助した介護者の会
「ワイワイクラブ」の後方支援にまわり、和泉ふ
れあいのご利用者だけではなく、地域の声にも
耳を傾けています。

このように、和泉ふれあいの家での活動は多岐
にわたりますが、今回はその中の2つの活動を紹
介します。

地域の学生に学習の場を

都立永福学園高等部就業技術科は、知的障害を
持つ生徒の通う高等学校です。

旧永福高校の跡地に2年前に開校した永福学園
は、全国でも先駆的に一般就労に向けた指導に取
り組んでいます。

昨年から、福祉コースを受講している2年生の
生徒が、毎週水曜日の午前中、介護現場学習とし



＜これからが楽しみ 永福学園の生徒さん＞

て、和泉ふれあいの家を訪れています。

「おはようございます！」という元気な挨拶と
笑顔。毎週水曜日の朝がとても明るくなりました。

5人ほどの生徒が、各テーブルに一人ずつ着いて、
プログラムに参加しています。

ご利用者も温かい目で生徒を見守っています。

和泉ふれあいの家では、これからも将来を担う
人材を育成していくため、学生の受け入れを積極
的に行なっていきたいと考えています。

地域の老人会を発表の場に



＜和泉たかさご会での発表会＞

和泉ふれあいの家では、2005年に大正琴クラブ
を結成し、「和泉大正乙女楽団」として日々練習に
励んでいます。日頃の成果を聴いていただくため
に、定期的な出張コンサートを実施しています。

12月13日には、老人クラブ「和泉たかさご会」
の誕生会に演奏の場を設けていただき、約30分演
奏を披露しました。発表の機会を通じて、ご利用
者の目標が高まっていくことや、生きがいに繋が
っていくことを期待しています。

一方で、「和泉たかさご会」のコーラスクラブも、
定期的に和泉ふれあいの家で発表をしてくださ
います。

地域の老人クラブと施設との音楽の交流は、こ
れからも続いていきそうです。

ボランティアの受け入れに関する方針

社会福祉法人サンフレンズは、地域の市民運動やボランティア活動から始まり、その理念にそって地域社会・地域住民とともに育ってまいりました。現在も多くのボランティアに支えられ、また「おとしよりの方とお話をしたい」「演奏を披露したい」「ボランティア活動をしてみたいが、何から始めたらいいのか分からない」など、新しくボランティア活動をしたいという方々から、来所や電話など多くの相談が寄せられています。

ボランティア活動は、個人の自発的な意思から始まる活動ですが、活動者個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるだけではなく、人と人が共に支えあい、交流する地域社会づくりが進むなど、大きな意義と可能性をもっています。

杉並区内の複数箇所でも高齢者介護事業を展開できるまでになった今、サンフレンズのそれぞれの事業所には、高齢者の日常生活を維持していくための援助の他に、地域住民のボランティア活動への理解を深め、参加を促進するための拠点としての社会的役割があると考えます。

この役割に積極的に応えていくため、法人としてボランティア活動に対してどのように考え、どのように受け入れていくのかを具体的にする必要があります。このたび2008年12月13日に開催した理事会で、『ボランティアの受け入れに関する方針』を策定しましたので、報告いたします。



上記方針にご賛同いただける方、ボランティアをしてみませんか。
詳細は各事業所にお問い合わせ下さい。

上井草園	03-3394-1094	担当：相原
サンフレンズ善福寺	03-5303-0756	担当：白石
上井草ふれあいの家	03-3394-9831	担当：高橋
和田ふれあいの家	03-3312-9556	担当：尾園

基本方針

- ①私たちは、地域と共に歩む法人として、ボランティア活動を積極的に受け入れ、地域住民の福祉に対する関心・理解の拡がりに力を尽くします。
- ②私たちは、ボランティア活動の受け入れにあたって、活動者の意思・目的を尊重します。活動開始時や活動中の相談にてその意思をしっかりと受け止め、目的に沿った具体的な活動ができるよう援助します。
- ③私たちは、ボランティア活動に対し、ボランティアと利用者の温かい心のふれあい、それに伴うボランティアの自己実現への欲求や社会参加意欲の充足、および利用者の生活意欲や質の向上に期待をします。介護サービスの代替・補填を求めるものではありません。
- ④私たちは、ボランティアの受け入れに際して、活動者・利用者・事業所の三者に心の潤いと喜びが感じられ、三者の人間関係や活動の幅が広がるように援助し、その相乗効果を三者および地域社会に拡げていきます。
- ⑤私たちは、すべての職員がこの基本方針を理解し、すべての事業所がボランティア活動を有意義に受け入れることができる態勢をつくります。

本方針に基づき、ボランティアの意思が尊重され、利用者との温かいふれあいが多く実現できるよう、職員一人ひとりに対する理解・浸透に努めてまいります。新年度からは、研修と実践の中から、各事業所ならびに事業所のボランティア担当のボランティアコーディネート機能の専門性を強化していきます。

法人への寄付金および物品等を賜り、厚く御礼をもうしあげます。

2008年11月1日から12月31日までにご寄付をいただいた順に掲載しております。

《寄付金》立教女学院高等学校様・宮本正勝様・藤井基男様・石村延枝様・大場文子様・松島四朗様・匿名希望6名

《物品等》池田美智子様・増田弘之様・風見洋様・井上早苗様・曾根真澄美様・平田実様・宇野澤八恵様・清水明子様・大熊玲子様・桃三ふれあいの家様・松尾廣高様・畠山真佐美様・千田枝美子様・荘田由美子様・伊神優様・匿名希望12名

ボランティア紹介 第33回 一期一会を大切に



<いつもニコニコ笑顔の大谷一也さん>

今号では、サンフレンズ善福寺の大谷一也さんをご紹介します。

大谷さんは、「ボランティアをしたい」と2008年4月、サンフレンズ善福寺にヒョコッと現れた20歳の専門学校生です。サンフレンズ善福寺が、まだボランティアを受け入れる体制が十分整っていない時でしたが、いつもニコニコと来てくださり、利用者・職員ともすっかり顔馴染みになりました。活動内容は、ご利用者とのお話相手や、散歩の付き添い、行事のお手伝いなどです。

大谷さんがボランティア活動をしようと思ったきっかけは、学校ではできないお年寄りの方々とコミュニケーションを沢山とりたかったからだそうです。「最初は何を話して良いのか分かりませんでした。しかし今は、ご利用者が自分の顔を覚えてくださって嬉しいです。親身に聞いて差し上げていると、自分も楽しく、ご利用者も喜んでくださり、コミュニケーションの大切さを感じ

ます」とのことです。大谷さんは当初、ご利用者と職員との距離がとても近く、家族のような関係に驚いたと語ってくれました。

趣味はサクソ吹奏で、好きな曲はクラシック調の曲。また、お寺や神社が好きで、京都などのお寺を訪ねたりしています。好きな言葉は、「一期一会」。そんな大谷さんは、友達も大切にしています。

これから、まだまだ福祉の勉強を続け、社会福祉士コースに進学しようと考えている大谷さん。サンフレンズ善福寺にとっても、福祉を担う若い人材という意味でも、素敵な仲間に出会いました。

これからも、よろしくお願いします。



<若いけど意外と古風なところもあります>

サンフレンズだより・ホームページへのご意見・ご感想をお寄せください

本部事務局 電話 : 03(3394)9833

FAX : 03(3394)9834

担当 : 中山・河野

ホームページアドレス

<http://www.3friends.or.jp>

E-mail アドレス

kamiigusa@3friends.or.jp